

平成30年度 川崎市岡本太郎美術館
事業報告・評価書

川崎市岡本太郎美術館

目次

1	展覧会事業	
	(1) 企画展	
	①「岡本太郎の写真—採集と思考のはざまに」展	1
	②「街の中の岡本太郎 パブリックアートの世界」展	3
	③「イサム・ノグチと岡本太郎—越境者たちの日本」展について	5
	④「第22回岡本太郎現代芸術賞」展	7
	(2) 常設展	
	①「太陽の塔 誕生—八面六臂の岡本太郎」展	8
	②「岡本太郎とからだ」展	9
	③「岡本太郎と渡仏記念展（1952）」展	10
	④「ファンタジック TARO」展	11
2	資料収集・整理、調査研究	13
3	作品の保存・修復、貸出	14
4	普及企画	15
5	広報活動	22
6	施設・設備の整備	23

平成30年度事業報告について

1. 展覧会事業

(1) 企画展

事業名	①「岡本太郎の写真—採集と思考のはざまに」展
会期	2018年4月28日(土)～7月1日(日)
目標	<p>岡本太郎は若き日のパリで、画家としての方向を模索するかたわら、自分の行く道への裏づけを得るため哲学や社会学に関心を持ち、パリ大学で民族学・文化人類学を学びました。パリでは、画家だけでなく写真家とも親しく交流し、ブラッサイヤマン・レイに写真の手ほどきをうけ、引き伸ばし機を譲り受け、展覧会にも出品しています。しかし、岡本が猛烈な勢いで写真を撮りはじめるのは、戦後、雑誌に寄稿した文章の挿図に、自分が見たものを伝える手段としてこのメディアを選んだ時からでした。</p> <p>こどもたち、風土、祭りの熱狂、動物、石と木、坂道の多い街、屋根、階段、境界。岡本が写し取ったイメージは、取材した土地・旅先でとらえられたもの。フィルムには、レンズを通してひたすらに見つめた、岡本太郎の眼の痕跡が残されています。本展では、岡本がフィルムに切り取ったモチーフ、イメージを軸に、岡本太郎の眼が見つめ捉えたものを検証することで、絵画や彫刻にも通底する彼の関心・思考を探る試みです。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・岡本太郎の写真をこれまでの枠組みからいったん離れ、被写体を中心に展示構成を考えた内容。企画協力を楠本亜紀氏(写真評論)、会場構成を藤原徹平氏(建築家)に依頼し、写真作品を4章18カテゴリに分けて構成しました。 ・展覧会図録は、小説家の堀江敏幸氏にご寄稿を頂き、手軽に手に取ってもらえるサイズと価格設定としました。 ・関連イベントでは、岡本太郎の写真を新たに読み解く試みとして、ジャンルの異なる新進の専門家によるレクチャーシリーズ「写真・採集・思考」として①柴崎友香(小説家)、②目(現代芸術活動チーム)、③下道基行(写真家)を行ったほか、「岡本太郎の写真で「てつがく」する」と題した哲学対話のワークショップ(神戸和佳子)も行いました。

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

自館コレクションの、岡本太郎の写真と絵画彫刻で構成する低予算枠の展示であることから、ちらしデザイン8種、招待状など、従来よく流布している写真イメージを外して、意外性のある宣伝物をねらい作成した。展示デザインは建築事務所と検討し、稼働壁をこれまでない形での配置することで、低予算ながら新鮮な会場構成となった。『版画芸術』での特集頁をはじめ、メディアへの掲載もコレクション展の割にはあり、写真評論家らの好評も得た。図録執筆者、レクチャーなどもこれまでと異なるジャンルの専門家を起用し、内容の広がりを持たせることができた。入館者はGWを中心に5月が多く、会期が短いため、昨年より総入場者数は少ないものの、1日平均入場者は10人以上多かった。なお『毎日カメラ』の年末特集「今年のベスト5写真展」では、2名の写真評論家から上げて頂いた。

[課題・反省等]

展示点数の多さもあり、見栄えの観点から壁面にキャプションを付けず、手元リストで対応する形とした。文字の大きいリストなども用意する方式をとった。シンプルな展示構成に来館者の好評の声も多かったものの、一部の観覧者からは見にくい、対応しにくいとの声があった。

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

- ・岡本太郎の時代のアートには、「異文化ハンター」という役割があった。北大路路山人、利根山光人などたくさんの方がそれを実践。その頂点に立つのが岡本太郎の芸術である。従って彼の写真には、その痕跡がはっきりと刻み込まれている。石垣島や久高島の写真をみると異文化の採集にあたって、つねに人やモノの向こうに、自分の作品へとつながる造形性がしっかりと追い求められていたことが了解される。
- ・写真を通して日本の文化を再発見した岡本太郎の位置づけは定着しており、もっと評価されて良いと思う。写真家としてよりも文化人として。
- ・既にプリントされている写真作品を新たな視点から構成した野心的な展示。限られた予算の中で広報、プログラムのキュレーションに工夫がされていた点も良かった。
- ・会場構成等意欲的な取組が見える展覧会だった。関連企画も含め楽しかった。

A

事業名	②「街の中の岡本太郎 パブリックアートの世界」展
会期	2018年7月14日(土)～9月24日(月・祝)
目標	<p>岡本太郎の多面的な活動の中で、公園や学校などパブリックな空間に創作した作品は、全国に70カ所140点に及ぶ。岡本は、作品が個人の所有物となることを拒みつづけ、誰でもいつでも見ることの出来るパブリックな空間に作品を創り続けた。そこには「芸術のための芸術」ではなく、芸術が我々の日常空間にあって社会と人間をつなげる不可欠な存在であり、生命の根源的喜びと感動を呼び覚ますという彼の芸術理念が貫かれている。</p> <p>本展は、日本万国博覧会テーマ館《太陽の塔》のリニューアルを記念して、岡本が生涯を通じて社会に打ち出したパブリック作品を俯瞰する。場との迎合を否定し、対立することでお互いの個性を生かすという岡本の作品に込められた思いと、社会に打ち出されたメッセージを知る機会とする。</p>
内容 (展示)	<p>■モザイク画と初期作品 モザイク画:《群像》、《太陽の神話》、《駆ける》、《花ひらく》、《遊ぶ》 油彩:《創生》、《青春》、《群像》</p> <p>■平面から立体へ(レリーフと立体作品) 油彩:《建設》、《日の壁》 レリーフ:《日の壁》《月の壁》 彫刻:《動物》、《顔》、《誇り》、《若い時計台》、《マミ会館》、《若い太陽の塔》、《太陽の鐘》</p> <p>■《太陽の塔》と《明日の神話》 油彩:《明日の神話》 彫刻:《太陽の塔》、《青春の塔》、《戦士》</p> <p>■70年以降の作品 レリーフ:《躍進》、《眼と眼コミュニケーション》、《足あと広場》、《天に舞う》 彫刻:《縄文人》(岩手県藤沢町)、《平和を呼ぶ》、《母の塔》</p> <p>■映像 映像1. パブリック作品をプロジェクターを使い映像として展示。 映像2. 日本工業大学学生によるVRコンテンツ体験 映像3. 多摩美術大学学生による《日の壁》プロジェクションマッピング 映像4. パブリック作品の制作ドキュメント</p> <p>■資料 「太陽の塔」「マミ会館」、建築物の青焼き図面、スケッチ、石膏原型、原画</p> <p>■イベント バシエ音響彫刻コンサート 7月22日高田みどり、7月29日永田砂知子 音響彫刻レクチャーと音響体験 7月21,28日 蘇れバーチャルリアリティ太陽の塔 8月11日から19日 日の壁プロジェクションマッピング 8月11日から9月24日 モザイクアートを作ったろう 8月11,12日 町の人気者岡本太郎パブリックアート巡り バスツアー 9月10,11日 担当学芸による展覧会ギャラリートーク 8月25日、9月16,24日</p>

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

猛暑の影響もあつたか、目標としていた2万人の集客には届かなかった。バシエコンサートには2回とも300人を超える参加者、またVR体験でも1週間で1600人の参加を記録した。初めての企画となる旅行会社と提携した作品を巡るバスツアーは参加者が規定数を満たないため中止となった。

内容的には岡本太郎芸術の核心を表すものだと思うが、思うような数字が出なかった。本展でまとめた岡本太郎のパブリック作品の調査記録は館のデータベースとして蓄積し、今後の調査のベースとしたい。

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

- ・岡本太郎の作品はインパクトが強いので、設置された地域一帯によく浸透していく。当然、後世に残しておきたいという要望が強いわけだが、これがスケールの大きさなどから言って無理であることは、それなりに理解できる気がする。それだけに本展のような緻密な調査に基づいた展覧会によって、野外作品がすでに朽ちはじめた現状をも世に知らせることは、展覧会のきわめて大切な機能の一つになってきていると思うのである。
- ・この分野は実際の作品を持って来ることが出来ないところを、いかにして補いながら展覧会を仕組むかという難題がある。また岡本太郎や丹下健三の時代は割合素朴な考え方から建築とアートが結びついている、その原型といってよい。それが見れたことは有意義であった。
- ・美術館には来ないような一般の人々にもアート鑑賞の経験を提供する岡本太郎のパブリックアートを俯瞰し、データ化することに意義があると思う。こうした展示をきっかけとして、パブリックアートをつなぎ、巡礼できるようなシステム提案が行われると良いと思う。
- ・日本各地にある岡本太郎のパブリックアートの全容を知ることができ、作品として現存しないものもあるため、検証として意義深い。

A

事業名	③「イサム・ノグチと岡本太郎—越境者たちの日本」展について	
会期	2018年10月6日(土)～2019年1月14日(月・祝)	
目標	<p>イサム・ノグチと岡本太郎は、1950年、日本アヴァンギャルド美術家クラブの主催により東中野のレストラン「モナミ」で開催されたイサム・ノグチの歓迎会において、初めて出会いました。日米の間で自己のアイデンティティに関する葛藤と向き合い引き裂かれながらも、彫刻家として世界的に活躍したイサム・ノグチと、青年期の10年間をパリで活躍しながらも大戦の為に日本に戻り引き裂かれ、日本の芸術界を異邦人としての眼で見ることができた岡本太郎は、それぞれに欧米で芸術家として活躍し始め、越境者として日本文化を見つめ、新たな表現活動を展開しました。同世代の二人の個性的な芸術家が日本の美術に触発されて制作した作品は、共に戦後の芸術界に大きな影響を及ぼしました。</p> <p>本企画展は、イサム・ノグチと岡本太郎という個性の異なる二人の越境者の作品を通して、「日本」あるいは「日本美」とは何かについて再確認するための機会として開催します。</p>	
展示・イベント	<p>展示構成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イサム・ノグチと岡本太郎の交流 2. 1950年代のイサム・ノグチと岡本太郎 3. 芸術と保存そして破壊：イサム・ノグチと岡本太郎の場合 4. ジャポニスム・ジャポニカ・伝統論争 5. 生活の中の芸術 6. それぞれの挑戦—「日本美」との対決 7. 庭 —空間の彫刻 <p>記念講演会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 11月4日(日) 14:00～ 講師:渡部葉子 (應義塾大学アート・センター教授) 演題:「萬來舎とノグチ・ルーム」 2. 11月25日(日) 14:00～ 講師: グラジナ・スベリテェ (ヴェネチア・ペギー・グッゲンハイム・コレクション学芸員) 演題:「イサム・ノグチとパリ・ユネスコ庭園」(仮題) 	
内部評価(自己点検)		
[実施状況・成果等]	<p>入場者数 22,706 人 (1日平均 276.9 人) の入場者であり、近年、当館で開催した岡本太郎関連企画展としては、多くの来場者に恵まれた。アンケート等の反響にも、「面白かった」等の記述が多く、広い層の来場者に好評であった。</p>	
[課題・反省等]	<p>展覧会図録に関し、充実した内容と評価される一方、掲載画像のサイズが小さいとのご指摘も受けた。</p>	
[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]	<p>・一時期のニューヨークでアート活動を展開した日本人アーティストにとって、イサム・ノグチは最も成功した例であるばかりではない。何かあるたびに、実際に支援してもらえる駆け込み寺的機能をも持つ、偉大な先輩であった。同様に岡本太郎は、一時期のパ</p>	
		A

リを象徴する存在としていわばフランス派の旗頭でもある。
従って本展は「越境者」という共通性で括られながらも、パリ・ニューヨークを対比・検討するなかから浮かび上がってくる、現代日本の美術アートという側面をもっている。それをきわめて無意識的に、しかも鮮やかに打ち出したところが高く評価されよう。

- ・イサム・ノグチの3か所の展覧会を比較しながら見ることによって、理解も深まり、強く印象付けられた。同時代者という見方もできる。
- ・越境するアーティスト、イサムノグチと岡本太郎を並置して展示することで、岡本太郎作品を新たな視点から検討することができた。イサムノグチに対する関心が高まっている中での企画となり、来場者を集められたことも評価できる。
- ・イサムノグチの再評価は他館の展覧会もされているため、イサムノグチと岡本太郎との交流、さらには“日本美”について考えさせるものだと思う。

事業名	④「第22回岡本太郎現代芸術賞」展
会期	2019年2月15日(金)～4月14日(日)
目標	「岡本太郎現代芸術賞」は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するため設立された。今年で22回目をむかえる本賞をし、21世紀における芸術の新しい可能性を探り、意欲的な作品を紹介する。
内容	本年度は、416組の応募があり、25組の作家が入選。最終審査の結果、岡本太郎賞1名、岡本敏子賞1名、特別賞3名が選出された。 岡本太郎賞：檜皮一彦《hiwadrome: type ZERO spec3》 岡本敏子賞：風間天心《Funetasia》 特別賞：國久真有《BPM》 竹内カズノリ《こちふかば(ボッチ・川崎にて)》 田島大介《無限之超大國》 入選：Art unit HUST(遠山伸吾、臼木英之)、秋山佳奈子、赤穂進、イガワ淑恵、井口雄介、大槌秀樹、岡野茜、革命アイドル暴走ちゃん、梶谷令、佐野友紀、塩見亮介、瀧川真紀子、田中義樹、服部正志、藤原史江、本堀雄二、MA JIAHAO、宮内裕賀、宮田彩加、吉田絢乃 関連イベントとして、作家によるギャラリートーク、来場者による人気投票、来場者から作家への「お手紙プロジェクト」を実施。

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
搬入、展示設営とも作家の協力により無事に終わることができた。 展示設営時にヘルメットと安全帯を用意した。高所作業を行う際には、ヘルメットと安全帯をつけて作業をするよう声掛けを行い安全に留意した。
[課題・反省等]
次年度以降は、ヘルメットと安全帯の数を充実させ、高所作業の安全を徹底させたい。

[外部評価] 意見(評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]	
<ul style="list-style-type: none"> ・これだけ趣旨のはっきりしたコンクール展は、ほかにないだろう。しかもよくみていくと、審査サイドに作品評価基準のブレも授賞への逡巡もない。それが本展に、審美的ならびに興行的成功をもたらしている最大の所以だろうと思われる。個人的には風間天心さんの「平成」への惜別と弔いの思いを合わせたような作品への共感が、もっとも強くかつ自然であった。 ・なかなか面白い公募展が少ない中、大勢の人が期待している展覧会だと思う。芸術が社会性や政治性を帯びることは賛成である。ただしメッセージになってはならないが。 ・賞の意味を理解した上で、個々のメッセージを力強く伝える作品が集まっており、芸術の可能性を探るという目標は果たしていると思う。一方で、美大生や美大卒業生といったターゲットが内向きになり、公募展に応募しなくなってきている傾向があり、応募数が減少している点が若干危惧されるので、過去の受賞者に光を当てる広報などに一層力を入れたい。 ・宗教、政治、アイドル、肉体の欠損、戦争など現状の不穏な動向があらわれている。 	A

(2) 常設展

事業名	①「太陽の塔 誕生—八面六臂の岡本太郎」展
会期	2018年4月19日(木)から7月1日(日)まで
目標	<p>1970年の万博開催より48年を経て、大阪の《太陽の塔》は耐震・修復工事とともに、胎内の「生命の樹」が復元・修復され、3月19日から一般公開された。その公開にあわせ、当館でも《太陽の塔》に関する常設展を行った。</p> <p>本展では、岡本太郎が日本万国博覧会のテーマ館プロテューサーに就任する1967年頃から、開催翌年の1971年頃までの、万博の仕事と同時進行で数多くの仕事をこなし、文字通り八面六臂の活躍をした岡本の活動について紹介する。</p> <p>万博のテーマ館であった《太陽の塔》を中心に、この時期に制作された他の作品や執筆活動、プライベートの様子など、当時の岡本の多面的な活動について、作品や資料・映像とともに紹介する。</p>
内容	<p>◇出品作品・資料</p> <p>○油彩 《作家》《森の掟》《駄々っ子》《樹人》《マスク》《千手》《天空に我あり》《明日の神話》《顔Ⅲ》《顔Ⅵ》《未来を見た》他</p> <p>○彫刻 《若い時計台》《光る彫刻》《午後の日》《梵鐘・歓喜》《マミ会館模型》《若い太陽の塔》《若い太陽の顔》《リボンの子》《太陽の塔》《樹霊Ⅰ》《戦士》《ノン》《樹人》《邂逅》《オリエンタル中村百貨店 光る大壁画》</p> <p>○その他 インテリア、陶器の作品、スクラップブック、プライベート映像、制作風景の写真・映像、万博関連資料</p>
[実施状況・成果等]	
<p>3月19日にリニューアルオープンした《太陽の塔》に関連した常設展。同時期には岡本太郎記念館でも万博当時の《太陽の塔》の地下・内部空間を再現したミニチュア展示を行っていた。当館では、1967年から万博開催の1970年までの岡本の活動に焦点を当て、作品制作やTV番組取材、執筆活動など、多忙を極める中でどのように《太陽の塔》が誕生したのか、写真パネルや解説パネルとともに年代順に紹介することができた。</p>	
[課題・反省等]	
<p>当館の所蔵作品を紹介する常設展での展示であったことと、記念館の企画とすみ分けをする意味で、《太陽の塔》の周辺の活動も幅広く紹介する内容としたため、《太陽の塔》のことを詳しく知りたいと思う来館者には物足りない内容となったかもしれない。</p>	

事業名	②「岡本太郎とからだ」展
会期	2018年7月5日(木)～2017年9月24日(月・祝)まで
目標	<p>岡本太郎は、絵画や彫刻など多くの作品のなかで「からだ」を表現している。絵画では、人や生きものたちが岡本独特の色や形で描かれており、全身が描かれた作品だけでなく、顔や眼、手など、からだの部分をモチーフとした作品がある。彫刻やインテリアでも、多くの作品が生きものの姿や顔、手などをモチーフとして作られている。</p> <p>本展では、絵画や彫刻、インテリアなど、岡本太郎の作品にみられる多様な「からだ」の表現を、「^{からだ}身体」「^{かお}顔」「^め眼」「^て手」という4つのテーマから紹介する。</p>
内容	<p>出品作品</p> <p>○油彩 《傷ましき腕》《夜》《玉を抱く女》《よろこび》《誘う》《森の家族》《遭遇》《喫煙者》《まひるの顔》《マスク》《裂けた顔》《マラソン》《顔・顔・顔》《眼の立像》《呼ぶ》《疾走する眼》《ひそやかな跳躍》《千手》《手の顔》 他</p> <p>○彫刻 《呼ぶA》《呼ぶB》《午後の日》《太陽の塔》《黒い顔》《顔の植木鉢》《むすめ》《梵鐘・歓喜》《踊り》《栄光》《女神像》《愛》《祭り》《樹人》《邂逅》 他</p> <p>○その他 版画、ドローイング、レリーフ、インテリア、陶器の作品</p>

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
岡本太郎の作品を初めて「からだ」という視点から紹介し、併せて作品の多様性も紹介することができた。
[課題・反省等]
岡本太郎作品を「からだ」「顔」「眼」「手」という4つのテーマで紹介することができたが、今後はそれぞれのテーマを深めて紹介してみたい。

事業名	常設展③ 「岡本太郎と渡仏記念展（1952）」展
会期	2018年9月28日(金)から2018年10月5日(金)まで
目標	<p>岡本太郎（1911-96）は、1930年から10年間、パリに滞在し、前衛芸術活動に参画しました。1940年、ドイツ・ナチスのヒットラーによるパリ侵攻により、岡本は帰国します。第二次世界大戦の後、岡本は、1952年11月に、再度、フランスを訪れる機会に恵まれます。</p> <p>この再渡仏を記念して、大阪の高島屋において、1952年10月17日から22日まで、「渡仏記念 岡本太郎展」が開催されました。同展には、1952年時点における岡本の代表作が展示され、岡本の再渡仏に懸ける意気込みが感じられます。</p> <p>本常設展では、第二次世界大戦後、再び国際的な芸術活動を開始しようとする、当時41歳の岡本太郎の作品をご紹介します</p>
内容	<p>1. 会期： 2018年9月28日（金）から10月5日（金）まで</p> <p>2. 会場： 川崎市岡本太郎美術館 常設展示室</p> <p>3. 主要出品作品</p> <p>油彩作品：《傷ましき腕》《夜》《二人》《まひるの顔》《美女と野獣》《重工業》 《森の掟》《クリマ》《黒い太陽》《群像》他</p> <p>彫刻作品：《顔》他</p> <p>4. 入場料：一般500円（400円）、大学高校生・65歳以上300円（240円）</p> <p>5. 休館日： 10月1日</p>

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等]	岡本太郎が再渡仏にかける意気込みとイサム・ノグチとの交流がわかりやすい展示であると好評であった。
[課題・反省等]	照明（特にグラスファイバーによる照明の部分）の不具合があり、調整が必要であった。

事業名	④「ファンタジック TARO」展
会期	2019年1月18日(金)から2019年4月26日(金)まで
目標	<p>岡本太郎がデザインしたインテリアや商業製品などのマルチプロダクトを紹介する。岡本は絵画や彫刻などを制作するとともに、数多くのインテリアのデザインも手がけている。その活動は生涯を通して続けられ、様々な“遊び”心にあふれた生活用品が生み出された。</p> <p>人間と対決することで人間性を回復させるという岡本の理念が反映されたものとして、それ自体が生き物の姿をした「ファンタジック家具」というデザイン、《坐ることを拒否する椅子》や「岡本太郎インテリア」展（1970年）などを紹介する。</p> <p>昨年は「太陽の塔」のリニューアル公開や2025年の大阪万博が決定するなど、岡本太郎が再び注目される機会となった。再びの大阪万博開催を記念し、常設展を開催する。</p>
内容	<p>①《重工業》《空間》《クリマ》《駄々っ子》《変身》《スモーキングセット》他 高島屋ショーウィンドウ紹介（パネル）、ポスター、他</p> <p>②《まどろみ》《遊び》《夢の鳥》《顔のグラス》《火の接吻》《哄笑》他 68・70年のインテリア展の紹介（パネル）、版画、ネクタイ原画、マルチプルグッズ、他</p> <p>③《千手》《哄笑》《サカナ》《顔IV》、モニター（CM映像）他 撮影コーナー：椅子各種、《レインボー号 模型》《光る彫刻》マスク、タペストリー、他 太郎人形部屋：実際に使われていた作業机・絵具・筆、彫刻マケット、大漁旗、他</p> <p>④《若い時計台》《戦士》《こどもの樹》《ノン》《四ツ足》《雑草》《歓喜》他</p>

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等]	<p>これまで展示に出る機会の少なかったインテリアや商業作品を中心に紹介する常設展。初公開作品としてスタンドグラスの《哄笑》を展示。関連情報として「ファンタジック家具」展（1968年）「岡本太郎とインテリア」展（1970年）などを紹介。パネルやワンポイントトークの解説内容は、アーカイブ事業によるスクラップ記事の資料をもとにした。生活雑貨など身近な作品が多く、また、あまり展示に出ない作品が多いため、好評の言葉を頂いている。</p>
[課題・反省等]	<p>マルチプルグッズなど細かい作品が多く初展示の作品もあったため、設営作業の際に時間がかかった。今後は作品配置の計画や準備を課題としたい。商業作品は一部詳細不明のものもあり、引き続きスクラップ資料などから調査を行いたい。</p>

常設展全般についての評価

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

・「太陽の塔」展：大阪万博の開催決定で、現在もっともタイムリー話題である。従ってもうちょっと開催時期がズレていると、さらに面白かったろうと思う。引き続き岡本太郎にとっての、「太陽の塔」の造形の意義に肉薄していつてもらいたい。

「岡本太郎とからだ」：岡本にとって美しい風景やモノは、決して美術アートの源ではない。それは偏に、身体を使ってなされる外界へのパフォーマンス性にあるとあってよいだろう。そう思うと本展の身体性を問いかける内容は、きわめて意義深いものであることが分かる。「眼」や「顔」、「手」への集中は単なる興味本位ではなく、きわめて本質的
美学上の問題なのである。

「岡本太郎と渡仏記念展」：渡仏記念展は彼個人のことだけでなく、近現代日本美術史上でももっともインパクトのある事件の一つであった。これの全容解明に向けて、まずは往時の展覧会再現というのは、きわめて学術的意義の高い展示と感じた。

「ファンタジック TARO」：雰囲気ガガラと変わって、とても新鮮である。有名な「坐ることを拒否する椅子」などの制作過程が展示されると、さらに魅力が倍加したであろうと推測される。

- ・いつも色々な切り口があるのが岡本太郎なのだと思いつながら見る。
- ・多様なテーマ、視点からコレクションを読み解く企画が実現されている。
- ・岡本太郎美術館の常設展示で様々な方向から展覧会を企画する苦勞もあるのだろうが、常に一定のクオリティを保っている。

B

2. 資料収集・整理、調査

事業名	資料収集・整理、調査研究
目標	作品資料収集に関しては、岡本太郎や同時代の関連作家資料について調査を進め、購入寄贈も含めて検討していく。 寄贈資料については、映像や写真、関連作家資料を中心に資料整理を進め、デジタル化を急ぐ。 フィルムや映像については引き続き早めの対応を行っていく。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 写真資料のデジタル化 ② 映像資料の整理とデジタル化 ③ 寄贈資料： <ul style="list-style-type: none"> ・池田龍雄関連資料一式 ・岡本太郎《水火清風》1995年 陶板画 ④ 購入資料の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・池田龍雄《鼻（〈百仮面〉シリーズ）》1960年 インク、鉛筆、水彩・紙 ¥750,000（税別） ・池田龍雄《現場のためのデッサン》1958年 鉛筆、コンテ・紙 ¥83,000（税別）

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
岡本太郎撮影写真のデジタル化に関し、今年度は著書『日本の伝統』を中心に81点のデジタル化とプリントを実施した。 池田龍雄氏関連の資料一式の寄贈を受けたことにより、当館が所蔵する文献資料が一層豊富となった。
[課題・反省等]
マッピングした半切プリントの収蔵場所を確保していく必要がある。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
<ul style="list-style-type: none"> ・池田龍雄氏関連の資料一式の寄贈は、受理までに10年間を要したといわれるが、内容の吟味にそれだけの時間が必要だったということか。その辺りの実態と苦勞を、市民たちにも分かるようにしてもらえると有り難いと思う。 ・デジタル化など継続的に行なうべき事業を丁寧に進めている。また関連資料の充実化が進んでいる点も評価できる。 ・デジタル化、デジタル資料の今後の保管など、引き続き取り組むべき課題も多いと思う。 	A

3. 作品の保存・修復、貸出

事業名	作品の保存・修復、貸出
目標	所蔵作品・資料の状態把握に努め、当館での展示に支障が生じないよう貸出の調整を行う。作品・資料の保存・管理業務を定期的に行い、適切な処置を施し、館内の良好な環境の維持に努める。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 岡本太郎作品を中心に、当館で所蔵する作品・資料の保存及び作品の状態を考慮した作品・資料の貸出を行う。 作品調書整備、作品修復業務、くん蒸業務など作品の保存・管理業務を定期的に行い、適切に処置する。 環境調査、酸アルカリ調査、温湿度調査、収蔵庫とその周辺の清掃作業など定期的に行い、館内の良好な環境を維持する。

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等]	<p>[作品貸出]</p> <ul style="list-style-type: none"> 池田龍雄関連資料 10 点を「戦後美術の現在形 池田龍雄」展（会期：H30 年 4 月 26 日～6 月 17 日、会場：練馬区立美術館）に貸出。 岡本太郎作品 13 点（油彩、版画、彫刻）を茨木市制 70 周年企画 川端康成生誕月記念企画展「川端康成と岡本太郎と万博と一激動の茨木」（会期：H30 年 6 月 1 日～6 月 30 日、会場：茨木市立川端康成文学館）に貸出。 岡本太郎作品 10 点（油彩、彫刻）を「太陽の塔」展（会期：H30 年 9 月 15 日～11 月 4 日、会場：あべのハルカス美術館）に貸出。 岡本太郎作品 4 点を特別展「信楽に魅せられた美の巨匠たち」（会期 H30 年 10 月 6 日～12 月 20 日、会場：滋賀県立陶芸の森）に貸出。 岡本太郎作品 31 点、北代省三作品 2 点、横尾忠則作品 2 点、岡本太郎撮影写真・資料 23 点を「岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人の創るもの」展（会期：H30 年 10 月 5 日～H31 年 1 月 14 日、会場：アーツ前橋）に貸出。 岡本太郎撮影写真 8 点を「日本美術に見る動物の姿（仮称）」展（会期：H31 年 5 月 5 日～7 月 28 日、会場：ナショナル・ギャラリー・オブ・アート（ワシントン DC）／会期：H31 年 9 月 8 日～12 月 8 日、会場：ロサンゼルス・カウンティ美術館）に貸出。 <p>[作品修復]</p> <p>岡本太郎《千手》1975 年、アルミニウム 岡本太郎の油彩作品《母と子》《行列》《仮面劇》《マスク》《疾走する眼》を修復。</p> <p>[その他]</p> <p>環境調査、酸アルカリ調査、温湿度調査、収蔵庫とその周辺の清掃作業など定期的に行った。くん蒸業務を 3 月下旬に行う予定。</p>
[課題・反省等]	今年度の後半は岡本太郎作品の貸出が同時期に重なり、常設展等との調整が必要であった。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
<ul style="list-style-type: none"> 作品借用の依頼は、当館の活動への評価という面もあるので、引き続き大切に維持していてもらいたい。またそれに伴う学芸員への原稿執筆・講演依頼は、当館学芸部のレベルアップにもつながるので、積極的に受け入れてほしいと思う。 多くの作品を貸し出したアーツ前橋での展示も好評で、他館での岡本太郎関連企画に協力しているというイメージが伝わり、評価できる。 外部への貸出についても、できるだけ活発に行えたら良いと思われる。 	B

4. 普及企画

事業名	普及企画
会期	通年
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と連携し、学校現場の実情、要望を踏まえた鑑賞プログラムによる教育普及活動の推進。 ・近隣の大学、専門学校、幼少中高等学校、地域商店街などと連携した事業を行い、地域との交流を高め美術館事業の活性化につなげる。 ・子どもから大人までが参加し、美術や岡本太郎芸術に親しむイベント、ワークショップを開催し、多くの人に開かれた美術館のイメージアップを図るとともに、地域に根ざした芸術活動の中心的役割を持つ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等の団体見学、校外授業のカリキュラムに応じたガイドや鑑賞活動を行う。 ・教育機関で活用する教材開発と貸し出し、活用例の紹介、出張授業を行う。 ・教育関係研究会、研修会等への招聘と参加を通じてより多くの教育機関と連携、協働した美術館活動を行う。 ・大学生、高校生をボランティアとして招聘して美術館イベントに参加するとともに、自らが考え、行動する自主性を重視した活動を行う。 ・幅広い層の来館者に対応した体験型イベントや年齢に応じた講座など来館者のニーズに沿ったイベント、ワークショップを行う。 ・教育普及を目的とした展覧会を開催する。

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

《教育プログラム》(2019.2.1 現在)

団体見学

学校や教育機関による団体での鑑賞学習や、美術館を利用したグループ学習を対象年齢や学習目的に応じて学校の先生と美術館が話し合いながら鑑賞を行っている。今年度は鑑賞プログラムをこどもの樹コース(ワークシートを手がかりに個人またはグループで鑑賞)、森の掬コース(スタッフによる対話型鑑賞)等に分け、鑑賞プログラムの充実を図っている。

<今年度見学団体> (2019.2.1 現在)

幼稚園・保育園	7 団体	216 名
特別支援学校	13 団体	299 名
小・中学校	69 団体	7620 名
高校・大学	25 団体	846 名
その他	6 団体	120 名

<29 年度>(2018.2.1)

幼稚園・保育園	3 団体	106 名
特別支援学校	5 団体	83 名
小・中学校	62 団体	7073 名
高校・大学	16 団体	422 名
その他	8 団体	159 名

職場体験(18 校)

中学・高校生に美術館の運営について施設の目的や内容を広く学んでもらうための活動である。学芸員、教育普及、施設管理、監視・受付、ミュージアムショップの仕事等を体験する。今年度は6月に申し込みの中学校が多かった。県立高校のインターンシップも夏休みに受け入れている。また今年初めて異業種体験として学校教員の受け入れを行った。

教材貸出

岡本太郎紹介ビデオ・DVD、作品をプリントしたもの(A5サイズ・A3)、岡本太郎の「遊ぶ字」をプリントしたものを貸し出している。下見時貸出教材の紹介を必ず行い、それらを活用した事前学習を勧めた。貸出数が増えていて県外からの依頼も増えている。アートカードは特に好評で、夏休み中に赤表紙のアートカードの在庫がなくなるほどである。

出張(9校)

図工・美術科における鑑賞活動として、また異なる学年によるイベント、ワークショップとして、学校と美術館が一緒に鑑賞プログラムをつくり実施する。10月以降に学校行事や授業公開において活用される学校が多い。

《普及イベント》

<TARO 鯉にいどむ! 2018>

ワークショップ日程 2018年①4月22日(日)、②29日(日)、③30日(月祝) 13:00~16:00

作品展示日程 2018年5月2日(水)~5月6日(日)

内容 常設展示室の鑑賞、制作、仕上がった後母の塔前広場に展示、記念撮影、という流れで行った。岡本太郎の言葉通り、「大人も、年寄りも、みんな自分自身が空中に飛翔しているような思いで」「自分勝手に」つくっていた。展示するための作業以外は出来るだけ自由に自分のおもいそのままにつくってほしいという意図があり、それがよかったというアンケートの感想もある。今年で5回目のイベント、リピーターも増えている。今年度は新たに第21回TARO賞作家12名と第19・20回作家11名とメキシコ作家6名にもご協力いただき作家の作成した28匹の鯉をギャラリースペースに展示し、ワークショップで制作した鯉を母の塔前広場にロープを5本つなぎ、218匹の鯉のぼりが泳いだ。

場所 創作アトリエ、常設展示室、ギャラリースペース、母の塔前広場

料金 無料(要観覧料)

参加人数 ①29名 ②37名 ③26名

協力作家 黒木重雄、黒宮菜菜、木暮奈津子、笹田晋平、塩見真由、藤本りか、文田聖二、細沼凌史、室井悠輔、矢成光生、横山信人、吉田英季子、与那覇俊、(50音順)

<こどもの樹をつくろう!>

ワークショップ日程 2018年5月2日(水)~6日(日) 10:00~16:00

作品展示日程 2018年5月2日(水)~5月20日(日)

内容 《こどもの樹》には、個性豊かな皆違う顔が並ぶ。子供の樹の顔で作った塗り絵と自由に描ける丸い紙を用意し、みんなで自由に顔を描いて《こどもの樹》を作った。ゴールデンウィーク中の小さい子供づれのご家族や大人の方にも楽しんでいただけた。多くの方にご参加いただき、館を賑やかすイベントとなった。

場所 ギャラリースペース

料金 無料

参加人数 2日(水):84名/3日(水):151名/4日(木祝):316名/5日(土祝):304名
/6日(日):202名 合計1057名

<はいはい&よちよち美術館ツアー>

日時 ①2018年4月11日(水) ②5月9日(水) ③6月13日(水) 10:30~11:30

内容 親子で一緒に鑑賞を楽しみ、お子さんの反応を確かめながらお子さんの様子を通して作品をみてもらったり作品を介しての親子のコミュニケーションを図ったり小さな子に無理なく美術館の雰囲気を感じてもらったりする鑑賞会を行った。抱っこで回るグループ、歩きながら回るグループに分かれお子さんや家族の方の様子をみながら進めている。

場所 ガイダンスホール~常設展示室

対象 0~3才の幼児とご家族 先着10組

講師 普及企画

料金 要観覧料

参加人数 ①8名 ②6名(当日雨天のため6組キャンセル) ③19名 事前電話受付

<生命の樹をつくろう!>

ワークショップ日程 2018年6月3日(日) 13:30~15:00

作品展示日程 2018年6月5日(火)~5月20日(日)

内容 太陽の塔内部にある、「生命の樹」には、様々な時代・種の生き物が配置されている。常設展を観覧し、一緒に回りながら太郎さんの考えた生命について考え、「出会ったことのない生き物」

テーマに思い思いの生き物を段ボールや画用紙で立体を作り、ギャラリースペースの樹に展示し、みんなの生命の樹を作った。展示期間中は葉っぱ型の塗り絵を用意し、制作してもらい特設POSTに投函してもらい生命の樹に葉を茂らせるコーナーも設けた。

場所 ギャラリースペース

対象 小学生以上 *幼児は要保護者同伴

講師 普及企画

料金 無料(要観覧料)

参加人数 37名 事前電話受付

自由制作 一週目:44枚 二週目:76枚

<ミュージアコンサート>

内容 ミューザ川崎主催のポプリ・コンサートを館で開催した。

日時 2018年7月14日(土) 14:00~15:30

場所 美術館ギャラリースペース

出演 鈴木 遥佳(ソプラノ) 満田 俊彦(ピアノ)

対象 どなたでも(当日先着順)

参加人数 118名

<中学生「夏休みの宿題手伝います」ツアー>

日時 2018年7月26日(木)10:00~11:00/14:00~15:00

27日(金)10:00~11:00/14:00~15:00

内容 中学校では夏休みの課題として美術館に行って感想をかいた新聞をつくったりする学校が多いため、美術館スタッフによるガイダンスを行ったりワークシートを提供した。今年度は、美術館の役割にも触れ、作品だけでなく美術館自体にも興味・関心をむけてもらった。

場所 常設展示室、企画展示室

講師 普及企画

料金 無料

参加人数 26日(木):23名 27日(金):20名 当日申込

<パブリックアートマップ>

日時 2018年①7月28日(土)②8月5日(日) 各日10:30~12:00

内容 夏休みの自由研究をアシストするイベントを、企画展示「パブリックアート」展の内容に合わせて行った。パブリックアートがある場所のマップを制作することで、美術館以外にも多く点在する岡本太郎作品について知識を深めると同時に、屋外で美術作品を鑑賞する体験や、美術館に実際に通い継続的に作品と関わる楽しさを知ってもらうことができた。

場所 創作アトリエ、常設展示室、企画展示室

対象 小学4年生~6年生(保護者の同伴無)

講師 普及企画

料金 1900円(図録代も含む)

参加人数 ① 5名 ② 5名 事前電話受付

<新聞紙で不思議な海のいきものをつくろう!>

日時 2018年7月29日(日) 10:30~12:00 /14:00~15:30

内容 第21回TARO賞で、不思議な形や表情の《くらげちゃん》が並んだ作品の作家である木暮奈津子さんによる、夏休みの工作にぴったりなワークショップ。世界に一匹だけの不思議な海のいきものをつくった。新聞紙とボンドで形をつくり、ジェッソを塗って絵具で思い思いの表情を描く。途中、常設展「岡本太郎とからだ」をまわり、太郎さんの不思議な“いきもの”もみんなで見てもみんなの生き物のイメージを深めた。

場所 常設展示室、創作アトリエ

対象 小学生以上

講師 木暮奈津子 (第21回TARO賞入選作家)

料金 500円

参加人数 78名 事前電話受付

<サマーミュージアム『TARO 缶バッジをつくろう』>

日時 2018年8月19日(日) ①11:00~ ②14:00~

内容 生田緑地イベントで岡本太郎美術館ではサマーミュージアムイベントとして、100名限定でオリジナル TARO 缶バッジをつくった。《子どもの樹》《坐ることを拒否する椅子》の塗り絵を用意し自由に色を塗りオリジナルの缶バッジをつくれるとあって、家族連れを中心に賑やかなイベントとなった。

場所 企画展示室

対象 どなたでも

料金 無料(要観覧料)

参加人数 130名 (先着順/整理券配布)

<プレミアム TARO ナイト>

日時 2018年8月24日(金) 17:00~20:00

内容 昨年の8月のプレミアムフライデーに行ったプレミアム TARO ナイトを今年も開催した。美術館の夜間開館を行うとともに、母の塔のライトアップ、母の塔前広場において BAR TARO を臨時開店し夏の夜をアートと美味しいお酒で楽しんでいただいた。常設展示室では、イベント“TARO BODY で謎解き”を開催した。

場所 母の塔広場、常設展示室、企画展示室

対象 どなたでも

演奏 miwako(アルトサックス、フルート)山本光恵(キーボード)

料金 無料 入館者は要観覧料(2割引)

入館者数 128名(17:00以降入館者)

展示室イベント参加者 106名

屋外イベント観覧者 302名

<ナイトミュージアム>

日時 2018年9月8日(土) 17:00~20:00

内容 学芸員のギャラリーツアーと普段見ることの出来ないバックヤードの一部を公開する大人限定のイベント。常設展をガイドツアー形式で観覧後、バックヤードを見学した。その後、各々で展覧会をご覧いただき、カフェやショップでも自由にゆっくりとした時間を過ごしていただいた。

場所 常設展示室、企画展示室

対象 どなたでも

講師 学芸

料金 2000円(入館料、ワンドリンク、ミュージアムショップ500円券付き)

参加人数 20名 事前電話受付

<《太陽の塔》をかたろう 《太陽の塔》から48年—我々はどう生きてきたか>

日程 2018年9月15日(土) 13:30~15:00

内容 アジアで初めての万国博覧会が大阪で開かれ早48年。この3月に再び内部公開となった《太陽の塔》の情報に触れ、その時代の社会、世相や自分のことを思い出される方、そして48年間独り立ち続ける《太陽の塔》から何かを感じられた方。自分にとっての《太陽の塔》とは?というキーワードをもとに話していただいた。当時実際に制作にかかわった方々にもおいでいただいた。

場所 企画展示室

対象 太郎さんの思い出をお持ちの方すべて

料金 無料(要観覧料)

参加人数 10名

<多摩区民祭『ペーパーTARO バックをつくろう!』>

日時 2018年10月20日(土) 11:00~/13:00~/14:00~

内容 生田緑地で行われる多摩区民祭のなかで岡本太郎美術館では展覧会ポスターからペーパー

TARO バックをつくるワークショップを行った。家族連れを中心に賑やかなイベントとなった。

場所 ガイダンスホール

対象 どなたでも

料金 200 円

参加人数 58 人

<第 8 回キッズ TARO 展—テーマ「生命の樹」—>

日時 2018 年 11 月 3 日（土祝）～11 月 25 日（日） 9：30～17：00

内容 自由な発想で、独創的な作品を作り続けた岡本太郎。その精神を受け継ぎ、子どもの無邪気で自由な表現の場として、第 8 回目となるキッズ TARO 展を開催した。今年のテーマは「生命の樹」のもと、幅広い作品が集まった。

場所 ギャラリースペース

対象 中学生以下

応募者数 18 名

専修大学インターンシップ学生企画

<石の世界をつくろう！>

日時 2018 年 11 月 18 日(日) 10：00～12：00 13：30～15：30

内容 専修大学学生による企画展のツアーガイドとワークショップイベント。石を観察し、思い思いのものに見立て、描き岡本太郎とイサムノグチの作品の写真を印刷した台紙を用意し、その上に石で制作した生き物やオブジェクトをのせて「石の世界」をつくった。

場所 企画展示室、創作アトリエ

料金 無料（要観覧料）

参加人数 70 人

<はいはい&よちよち美術館ツアー>

日時 ①2018 年 9 月 12 日(水)②10 月 9 日(火)③11 月 14 日（水） 10：30～11：30

内容 親子で一緒に鑑賞を楽しみ、お子さんの反応を確かめながらお子さんの様子を通して作品をみってもらったり作品を介しての親子のコミュニケーションを図ったり小さな子に無理なく美術館の雰囲気味わってもらおう鑑賞会を行った。

場所 ガイダンスホール～常設展示室

対象 0～3 才の幼児とご家族 先着 10 組

講師 普及企画

料金 要観覧料

参加人数 ①7 組(17 名) ②5 組(11 名) ③9 組(20 名) 事前電話受付

<じゅえき太郎と冬でもムシトリ！>

日時 2018 年 12 月 1 日（土） 13：30～15：30

内容 TARO 賞入選作家「じゅえき太郎」と紙粘土でオリジナル昆虫を作り、じゅえき太郎さんの作品《ムシトリ》と一緒にギャラリースペースに展示した。人気作家のイベントとあり、初めて来館される方も多く、作家の視点からの太郎作品の話しや一緒に制作する時間を楽しんでいた。

場所 創作アトリエ、美術館ギャラリースペース、展示室

対象 小学 3 年生～どなたでも

講師 じゅえき太郎

料金 500 円+要観覧料

参加人数 34 名 事前電話受付

<メリーポールでクリスマス！>

日時 2018 年 12 月 18 日（日） 13：30～15：00

内容 岡本太郎が池袋を「明るい街」というキャッチコピーのもと依頼され、クリスマスツリーをイメージしてデザインを考案した《メリーポール》。参加者には、展示中の岡本太郎の《光る彫

刻》イサム・ノグチの《あかり》を鑑賞しイメージを膨らませ、クリスマスを前に明るい新しい年への願いを光のオブジェに表し《メリーポール》をつくった。

場所 創作アトリエ、企画展示室、ガイダンスホール

対象 小学生～どなたでも

料金 500円＋要観覧料

参加人数 31名 事前電話受付

<文化財ポスター展>

日時 2019年1月26日(土)～2月11日(月祝) 9:30～17:00

内容 神奈川県教育委員会で行われる、文化財保護ポスター展の作品から、川崎市内の中学生による作品を美術館のギャラリースペースに展示し、来館者にみていただいた。

場所 美術館ギャラリースペース

展示点数 91名

<はいはい&よちよち美術館ツアー>

日時 ①2019年2月13日(水) ②3月12日(水) 10:30～11:30

内容 親子で一緒に鑑賞を楽しみ、お子さんの反応を確かめながらお子さんの様子を通して作品をみてもらったり作品を介しての親子のコミュニケーションを図ったり小さな子に無理なく美術館の雰囲気を味わってもらったりする鑑賞会を行った。前回の振り返りからより充実させるために電話受付により10組を対象として行った。

場所 ガイダンスホール～常設展示室

対象 0～3才の幼児とご家族 先着10組

講師 普及企画

料金 要観覧料

参加人数 ①7組(17名) ②10組 事前電話受付

<大人のための TARO 塗り絵>

内容 岡本太郎の展示作品や第21回 TARO 賞の作品を見た後、岡本太郎作品の塗り絵を、色々な画材、技法を学びながら体験していただく。これまでの画材、色鉛筆・コンテ・クレヨン・水彩絵具に今回はアクリル絵具を加え、より複雑な色を楽しめるようにした。

日時 2019年2月17日(土) 13:30～16:00

場所 美術館創作アトリエ ほか

料金 1200円(観覧料含む)

対象 20歳以上

参加人数 12名

<Taro バースデーコンサート>

内容 岡本太郎の誕生日(2月26日)を祝って、コンサートを開催。今年は、『美の世界旅行』(1982年)で岡本が「いのち輝くスペイン」と綴ったエッセイにちなんで、スペインの名曲を中心に楽しんでいただく。

日時 2019年2月24日(日) 14:00～15:00³²

場所 美術館ギャラリースペース

出演 河野智美(ギター)

対象 どなたでも(当日先着順)

料金 無料(椅子席70席は要観覧券・先着順)

参加人数 名

協力 昭和音楽大学/株式会社プレルーディオ

[課題・反省等]

- ・昨年から行ってきた乳幼児向けのツアーは、回数を重ねて来館者サービスとして定着し、今年は申し込み開始すぐに定員になるなど、好評を得ている。緑地内の他施設との連携も行いながら、来年度も引き続き行う予定である。また二度目の試みとなる夏季休暇中の中学生向けのツアーも、需要があることが手ごたえとして感じられた。
- ・大人向けのイベントとしては、「ナイトミュージアム」「大人のための TARO 塗り絵」は、近年の定番イベントとして開催したほか、二度目のプレミアム TARO ナイトも好評だった。シニア層へ向けたイベントでは「太陽の塔をかたろう」を行い、当時の万博関係者から小学生まで幅広い世代が参加して内容の濃いイベントとなった。
- ・専修大学とは今年度もインターンシップの受け入れを行い、大学との連携事業を展開できた。来年度も引き続きよりよい形での受け入れと連携を深めていきたい。
- ・学校団体の受け入れについては、今年一年は試行期間として、従来の対話型鑑賞だけでなく多様な鑑賞方式の提示とスタッフ体制等をカバーする工夫も含め、多層的な受け入れ方式の検討・試行を行った。クラス数が多すぎるケースなど、結果として一部の受入れでトラブルの発生も見られたため、受入れを行う学校数やスタッフ体制などを見直すことも含め、来年度の運用に向けて今後の方向性を確認した。

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

- ・<はいはい&よちよち美術館ツアー>は、その内容からいって、衝撃性のあるイベントだと思う。幸い参加者からも概ね好評のようなので、今後も思い切ってチャレンジしてってもらいたい。
- ・教育普及事業は展覧会とは違って、市民と接触する機会が多いと思う。スタッフだけで対応しているということだったが、むしろ市民ボランティアを育てた方がいいのではないだろうか。これからの美術館の方向付けのうえでも。
- ・今年度も、多くの生徒、学生を受け入れ、岡本太郎作品の普及のみならず、アートの普及にも大いに貢献している。ルーティーンとなるような学校のツアーにも新たにコース分けを導入するなど、常にプログラムをより良くしていこうという姿勢も評価できる。幅広い年齢層、バックグラウンドに向けたプログラムも行われており、その中でも乳幼児を対象にしたプログラムなど、未来に貢献する活動が充実している点も高く評価できる。
- ・<はいはい&よちよち美術館ツアー>など、小さな子供と親のための試みは、美術館への愛着を深めるものだと思う。

A

5. 広報活動

事業名	広報活動
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展やイベント毎の特色を生かし、より効果的な広報の拡大を目指す。 ・生田緑地施設や地域等と連携し、さらなる広報拡大を行う。 ・都内・首都圏への PR を目指す。 ・インターネットを活用した迅速な広報、告知を行う。
内容	<p>有料広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅貼りポスターの新規実施（都内・首都圏） ・川崎市立図書館レシート表面広告（宮前図書館、多摩図書館、麻生図書館） ・広報誌「TARO ニュース」刊行 <p>無料広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田急線・JR・商店街等へのポスター配布、川崎駅地下街アゼリア展示コーナー、川崎駅河川掲示板、市政だより、かわさきアートニュース、教育だよりなど、庁内連携による広報、JR 登戸駅電光掲示板、向ヶ丘遊園駅生田緑地看板 ・東急電鉄線川崎市内駅の構内へのポスター掲示を新規実施 ・プレスリリースによる新聞雑誌 WEB への告知 ・会期中会場内のイメージを加えたプレスリリース・図録を主要マスコミへ発送し掲載促進 ・展覧会ちらし・ポスターを他美術館等へ配布・掲示 ・インターネット活用による広報（美術館 HP、SNS、アート・イベント情報ページの登録・配信） ・プレス内覧会の実施

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
<ul style="list-style-type: none"> ・JV の東急ファシリティサービスの協力で、東急沿線川崎市内 10 駅にポスター掲出を実施。 ・有料広告として使用していた代々木上原駅の館看板を撤去し、美術ファン層へ向けた都内・首都圏への駅貼りポスターへ変更。展覧会ごとの認知度向上に努めた。 ・横浜美術館等企画展関連の他館と相互に告知協力を行った。 ・来館者 150 万人突破や大阪万博決定等、話題性の高いトピックの PR を実施し、取材・掲載された。
[課題・反省等]
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域、首都圏への PR の継続、来館者アンケートや SNS での反応を分析しながらより効果的な PR に努める。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）	[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]
<ul style="list-style-type: none"> ・広報を実施するだけでなく、その結果・効果の記録データ類を丹念に収集している様子がかがえて（とくに新聞記事など）、きわめて心強い限りである。データ類のなかから、次の活動を見つけ出すという地味だが、オーソドックスなやり方に期待したい。 ・アンケートはさまざまな意見の集積ではあるが、あるいは励まされたり、怒られたり、読むのが楽しい。何か使い方があのような気がする。 ・新聞などのマスメディアへの掲載、新たな広報媒体にチャレンジするなど、常にターゲットを確認しつつ、戦略を立て、実行している点を評価する。新たに開始した twitter など SNS は若者層の取り込みには不可欠なメディアであるため、ますますの活用が期待される。 ・川崎駅界隈のコンビニ等でもポスターを散見できる。SNS の活用も引き続き活発化して欲しい。 	A

6 施設・設備の整備

事業名	施設・設備の整備
目標	開館から19年を経過し、建物・設備が老朽化しており、施設の長寿命化及び作品の保全、市民の施設利用の利便性の向上、安全・安心の確保を図るため施設の計画的な更新・補修を行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上防水改修工事、空気熱源ヒートポンプユニット及び空気調和機長寿命化整備、受変電設備長寿命化整備、加圧給水装置長寿命化整備業務委託（まちづくり局予算） ・Wi-Fi 設備整備、自動ドア装置交換補修工事（カフェ、事務所、エントランス外側）、サンクンガーデン植栽部分補修工事、視覚障がい者誘導用線鋸取替等補修工事、エレベーター2号機・3号機補修工事、消防設備等補修工事、空調加湿器補修工事（美術館予算）

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
今年度は、まちづくり局の長寿命化予算を使って受変電設備や空調設備等の大規模な更新を行った。また、美術館の予算で Wi-Fi 設備の整備や視覚障がい者誘導用線鋸取替補修工事等を行い、利用者の利便性向上に努めた。
[課題・反省等]
今後も補修工事等は年々増加見込みで、かつ設備等の更新工事も必要となってくるため計画的な修繕・更新工事計画が必要となる。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
<ul style="list-style-type: none"> ・開館から19年経ち、なおかつ湿気の多い山地にあるという特性からして、施設の急激な老朽化は免れない課題である。そうしたなかで障害者などへの肌理こまかい対策が求められるところであり、継続的に粘り強い対応が期待される。 ・必要とされている補修、更新が行われている。また来館者が多く希望する wifi 設備の整備が行われ、利便性が向上した点を評価する。 ・予算に限りはあると思うが美術館の建物は重要なので中長期的に計画を。 	B